

螢 雪

第 80 回
(79・80 合併号)

— 華陽フロンティア高等学校同窓会新聞 —

平成23年7月14日

発行
岐阜市西鶉6の69
華陽フロンティア高等学校同窓会
電話058(275)-7185

発行責任者
樽谷 毅

印刷
サンメッセ株式会社



平成21年 華陽フロンティア高等学校同窓会総会 平成21年8月2日 於 岐阜会館

華陽フロンティア高等学校

創立八十年特集号



ありがとう

創立八十年

同窓会長

樽谷 毅

会員の皆様お元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。

日頃は、母校および同窓会のために、お力添え、ご支援を頂き、誠にありがとうございます。

さてこの度の「東日本大震災」で大変な被害を受けられた皆様、市町村の方々、一日も早い復旧を願い、心よりお見舞い申し上げます。世界ではネットによる呼び掛けで、長期政権批判、領土問題。国内では混乱政局、雇用問題、原発事故。その厳しい中にも母校では、伝統を引き継ぎ創立八十周年を迎えました。

十年前には七十周年を澤田名誉会長が大盛会に実施して下さいました。

二年前よりこの勢いを戴き、同窓会役員の方、PTA・校友会の皆様、校長先生・諸先生の皆様方にお力をお借りして着々と準備が進んでおります。募金活動もあと、もう一息です。会員の皆様のご協力に深く感謝を致します。今年も母校に感謝して二年に一度の同窓会総会の日がやって来りました。多く

の役員さん、当番幹事の方に集って頂き、会議等を積み重ねて進めて参りました。伝統ある母校をいつまでも守っていく事が、同窓会の大きな柱であり使命であると思います。会員の皆様へ、お詫びをさせていただきます。本来なら、八月七日(日)は総会日であります。日本では八月は、ご先祖様の供養月でもあります。学ばせて頂いた母校の、同窓会総会出席して有意義な一日を過ごして頂き明日への活力源にと願っておりましたが、諸般の事情により十月十六日(日)の日に創立八十周年感謝記念祝賀会会場にて同日開催とさせて頂きます。よろしくお願ひ致します。

又、この春の定期異動で窪田校長は長良高校長へ、臼井副校長は「土岐商業校長」へ転任されました。創立八十周年の大盛会を、澤田名誉会長と共に「広告」の企業回りをして頂きました。この行事が無事終了すると母校の次なる課題、同窓会の持ち方など、沢山、浮かび上がってきます。皆様のご意見など、この充実の為にご尽力を願っています。異動で本校には「東濃高校」より中島潤校長、「大垣桜高校」より相崎冬美副校長をお迎えして新しく出発です。

皆さんの益々のご健勝を祈念しつつ感謝のご挨拶とさせていただきます。

感謝

八十年の節目



校長
中島 潤

前任の窪田校長に代わり、今春から、伝統ある華陽フロンティア高等学校で勤めることになりました。今年は学校にとって大きな節目である創立八十周年感謝記念事業式典を秋に控え、身の引き締まる思いですが、学校といたしましても、一生懸命務める所存です。ですのでよろしく願っています。

さて、本校は昭和六年に岐阜夜間中学として創設されてから、今年で創立八十周年を迎えます。定時制、通信制の卒業生の方々と合わせて一万二千余名の同窓会員を持つ歴史と伝統ある学校です。過去は紡績産業などで働く学生の学びの場として勤労青少年に対する高等教育を提供してきましたが、定時制や通信制で学ぶ生徒が多様化することで本校の使命も変わって参りました。しかし、変わらぬものは、本校で学ぶ生徒の、学びごとへの喜びと明るい笑顔であると感じています。

華陽フロンティア高等学校と校名が変更されて十一年、子どもに例えると義務教育がもうすぐ終わる時ですが、ちょうどその年に、創立八十周年を迎えます。今年には、本校の八十年に渡る歩みを受け止め、これからの華陽フロンティア高等学校の教育について考える節目の年であると思っています。

創立八十周年感謝記念の年を迎える喜びと感謝のあいさつ

同窓会名誉会長

澤田 榮作



戦後六十五年、いつの間にか永い年月が過ぎ歴史の重さを感じます。又、母校の姿もその歴史の中にある

のであります。現在の日本の姿は、一体誰のお陰でしょうか。この日本の平和と繁栄の陰には、命を捧げられた余りにも多くの尊い方々と国民の献身的な努力があったからこそのであります。先人の皆様にはどれだけ感謝しても足りないであります。

日本の歴史と同様に、我が母校、華陽フロンティア高校の歴史もその通りであります。多くの恩師の先生方をはじめ多数の関係者の方々のご理解、ご尽力とご協力があったからこそ八十周年を迎えることができたのであります。同窓会の全ての会員が感謝しなければなりません。

昭和六年に岐阜県立夜間中学としてスタートして以来、岐阜第三中学、岐阜第三高校、華陽高校へと校名が変わりその間県立岐阜高校通信制課程や岐阜市立華南高校（昼間定時制）の県移管等により、母校は夜間定時制・昼間二部定時制・通信制の三部制となり、更に単位制高校に改編されました。現在は華陽フロンティア高校として新しい時代を迎えています。校名

は変わりましたが私たち卒業生は、青春時代の学習の場として母校には大変お世話になりました。

私はいつも、「華陽の定時制を卒業させて頂いて本当によかった」と誇りを持っているところであります。こうして現在一万二千五百人を超える卒業生の方々は岐阜地域はもとより全国各地で誇りを持って活躍されていることは、誠に同慶の至りであります。

同窓会も関係同窓会と合併して今日を迎えています。同窓会こそが母校の伝統を守る唯一の中心組織であります。私は、十年前皆さんのご協力ご支援のお陰様で、当時の小山校長先生と共に盛大に七十周年の感謝記念行事をさせて頂きました。

このたびの八十周年は、中島校長先生と樽谷同窓会長を中心に学校、同窓会、校友会及びPTAの関係者が一体となつて頑張つて頂いております。私も前回の恩返し的心積もりでお手伝いをしているところです。どうか八十周年の協力が済んでおられない方は、たとえ少しでもご協力をお願いいたします。

それでは、八十周年感謝記念大会が無事盛会に終わりますこと並びに母校の益々の発展と皆様の二層のご健勝を祈念しつつ感謝と誓いのあいさつといたします。

感謝



創立八十周年感謝記念事業を成功させよう

創立八十周年感謝記念事業実行委員会

同窓会実行委員長 川島 英司

突如襲ってきた未曾有の東北関東大震災で亡くなられた方々や福島第一原発事故の発生により避難生活を余儀なくされておられる方々に心からお見舞い申しあげ、被災地の一日も早い復興を祈念いたします。

さて、いよいよ創立八十周年感謝記念事業の年となりました。平成二十二年に立ち上げた感謝記念事業実行委員会では、母校、同窓会、PTA及び校友会の四者が一体となつて会議を重ね祝賀事業の内容を詰めて参りました。

その結果、主な記念事業として、全国的な大会等で活躍している後輩達によりよい学習環境を提供するための一助として、体育館音響・照明設備、視聴覚室暗幕設置、校舎耐震工事に伴う教育環境整備を行うと共に創立八十周年感謝記念式典の挙行、記念誌「蛍雪八十年（最近の十年分）」の刊行を行うこととなりました。そのために必要な資金二千円は同窓会会員皆様の寄付金と関係企業の協賛金をお願いしているところであります。

役員一同懸命の努力をしていますが現在までの応募は、目標の半分を超えましたが目標額にはほど遠い状況です。厳しい経済状況の中ですが、未応募の同窓生の方には、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また、岐阜グランドホテルにおいて、寄付金とは別の会費制で祝賀会を開催します。感謝記念式典と共に祝賀会へも多数の方々にご出席くださいますようお願い申し上げます。

創立八十周年感謝記念事業の成功と皆様のご健勝、ご活躍を祈念しながら、現況の報告とお願いの挨拶いたします。

創立八十周年感謝記念事業に向けて
各委員長活動現況報告から！

創立八十周年募金活動について

募金委員長 長屋好孝

「八十周年感謝記念事業活動実行委員会」の組織が、同窓会、PTA校友会、学校の三者によって発足され「十月十六日」に、「八十周年感謝記念事業式典」が行われます。

募金は、「二十万円」の目標額で、スタートしました。募金活動は、平成二十三年九月末まで行います。

私たちは、「創立八十周年感謝記念事業」を成功させ、伝統ある「母校」を築いてくださった先輩に、未来に向けて築いてくれる後輩たちに、「感謝」の気持ちを表したいと思えます。

創立八十周年感謝記念

祝賀会のご案内

総務委員長 堀 徳廣

昭和六年三月岐阜県立岐阜夜間中学として開校された本校が、めでたく創立

八十周年を迎えることとなりました。

その祝賀行事の一つとして感謝祝賀会を左記の要領にて開催致しますが、皆様のご出席をお待ちしております。

日時 平成23年10月16日(日)

午後二時十五分～

場所 岐阜グランドホテル

会費 八〇〇〇円 (前納制)

記念事業

記念式典委員長 浜野健三

八十周年の歳月の流れは、決して軽々しいものではない。その継続の道程の中に、多々発生した困難をその都度先輩や学校関係者が必死になって打破してくれた故に今の華陽フロンティア高校がある。

今眼前に華陽フロンティア高校八十周年の頂点をみし時、卒業生一万余名、関係者各位はその誇りを汗と涙と、協力と精励と共に死して尚忘れることはない。

記念誌、様式の変更について

記念誌委員長 豊田維康

営雪七十年の記念誌の様式の変更、体裁等をサイズ、A五サイズ→A四サイズに。レイアウト、縦書き→横書きレイアウトに変更致しました。体裁、ページ数を全体百十ページ程度、カラー写真を二十ページ程度、白黒写真を九十ページ程度で見やすさ、読みやすさを重視しています。卒業生の方々十年間の歩み是非見て頂きたいと思っております。

同窓会名簿の発刊について

名簿委員会委員長 広瀬富久夫

創立八十周年の佳節を迎えるに当たり、感謝記念事業の一環として同窓会名簿の発刊を決め、第一回委員会を二十二年七月に開催し出発致しました。昨今の

社会状況の変化により、個人情報取り扱いが重要な問題となり、各方面に相談したところ、同窓会名簿の発刊は難しくなりました。そこで記念事業に賛同賜り篤志を賜った方々のご芳名を、記念誌とは別冊にして、広告も掲載させて頂き発刊させて頂く事と決め、先生方の力強い

岐阜県立華陽フロンティア高等学校

創立八十周年感謝記念事業へのご案内

華陽フロンティア高等学校 同窓会長 樽谷 毅

我が母校も輝ける伝統を受け継ぎ、新たな伝統を重ね、本年、創立八十周年を迎えました。二年前より、八十周年の記念事業に向け、同窓会役員、学校関係者を中心に、多くの方々のご協力で、準備を重ねてまいりました。

例年八月に実施していただきました総会は、諸般の事情もあり、総会と、記念祝賀会は同じ日に、同じ会場にて実施することとなりました。何かとご多用のこととは思いますが、皆様お誘い合せの上、多数ご参加下さいます様、お願い申し上げます。参加されます方は同封の払込用紙にて会費を納入して下さい。(八月三十一日までお願いいたします。)

創立八十周年感謝記念式典

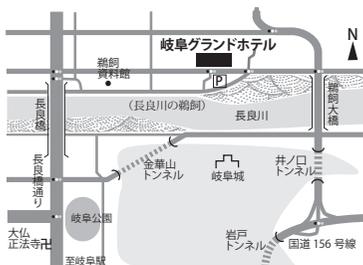
1. 平成23年10月16日(日) 在校生・学校関係者参列
 1. 9時30分～11時 (受付開始9時00分～)
 1. 本校体育館
- 式典終了後、総会、祝賀会場のグランドホテルまでは、バスを用意しております。
バスをご利用される方は受付時申し出て下さい。

同窓会総会

1. 平成23年10月16日(日) 同窓会会員・学校関係者参加
 1. 13時～13時45分 (受付開始12時30分～)
 1. 岐阜グランドホテル 孔雀の間
- 総会終了後の懇親会は同ホテル内祝賀会場へ移動して行います。

感謝記念祝賀会

1. 平成23年10月16日(日) 同窓会会員・学校関係者参加
1. 14時15分～17時 (受付開始13時30分～)
1. 岐阜グランドホテル ロイヤルシアター
1. 会費8,000円



協力を得て現在進めております。

東京同窓会

安岡 襄

平成二十二年年度の華陽高校東京同窓会は、十月三十日土曜日午後一時からグラウンドアーケ半蔵門で開かれました。

当日は母校より窪田範男校長、樽谷毅同窓会長、堀誓光同窓会事務局担当の三名のご出席を頂き、全員で十名の参加となりました。

山口名誉会長は今回は体調の具合で残念ながら欠席されました。

会は全体として高齢化が進み会員自体の出席者も七名というところでしたが、恩師の小林先生も例年通りご出席になり、女性会員は中谷シゲ子さんが出席でした。

会は小生、安岡会長のあいさつで始まり、次に窪田校長から母校のスポーツを始め各方面での活躍と、県内最大の高校としての活発な活動が報告され、出席者の感動を呼びました。

今回の八十周年行事には、昭和五十八年に四代会長に就任された前常富会長の功績をたたえ表彰の上申を決定しました。

次に各人の近況報告を交え出席者が固定してきたこともあり、直ちに歓談に入りました。会場の食事は和食の懐石風で飲み物はワインを含めて何でも飲み放題という方式でしたが、にぎやかに話が弾みました。

ここで私事ですが、小生は脊椎間狭窄症で、車椅子で出席、村井幹事欠席という事態で、同窓会の前途を危ぶまれる状況でしたが、幸い現在は両者とも元気で、会の運営を行つていま

す。会は校歌斉唱と、小林先生の挨拶で閉会となりました。

創立八十周年に寄せて

関西華陽会 横山道雄

昭和六年に夜間中学として開校以来めでたく八十周年を迎えられる事、とても嬉しく思います。周年行事の成功に向けて奔走されている役員の皆様に感謝を申し上げます。

今日まで母校が様々の変遷を重ねて定時制高校として、その前のままを兼備しながら、全国的にみても充実発展を遂げつつある事に、卒業生の一人としてとても誇らしく思い、更なる発展を祈念致します。

一昨年の関西華陽会は長良川の火花大会を観賞し、翌日の同窓会総会に出席という記事で「蛍雪」に載せました。けれど豪雨による花火大会中止という事態となり、両岸までの濁流をとてもうらめしく感じました。

けれども樽谷会長はじめ、地元役員さんや同窓生を含めての宴会は、とても楽しく想い出に残る一夜となりました。本当にありがとうございました。又いつかチャンスがあれば、長良川の火花を見たいと思います。

さて、関西華陽会は、昨年場所等の関係もあり開催する事ができませんでした。会員も高齢者が多く、今後は是非、関西在住の若い同窓生の入会を待ち望んでおります。

いぢぢは三十年の歩み!

岐阜東部華陽会 加藤正幸

東部華陽会は今年もさる三月二十一日午後五時から割烹「ざわだ」で十七名が参加してなごやかに開きました。母校からは窪田校長、同窓会樽谷会長にご出席いただきました。

それにしては元気に参加下さっていた熊田熊三郎先生が亡くなり、その姿が見えなくなつたのはさみしい限り。開宴に先だち熊田大先輩と東日本大地震被災者の冥福を祈り黙祷をしました。また席上、母校八十周年の年であり、記念事業が盛大に遂行されるよう協力していこうと、加藤会長から東部華陽会としての寄付金五万円と同窓会澤田栄作名誉会長から託の十万円を窪田校長に贈呈させていただきました。

会の方は記念写真におさまったあと本会の名物である花束贈呈が窪田、樽谷両来賓にあり、澤田名誉会長からは足を運んで運んで記念募金の達成をと力強く訴えられたのが印象的。女性の出席がなくなつたのは残念ですが、新顔もあり、横断的な気さくな絆の場であつてほしいと願っています。

ところで本会は昭和五十六年二月十二日に発足した「長森華陽同窓会」がはじまりで、故小野木利尚恩師を囲む同志が広がりを見せ、今は名称も改めて三十年

の歩みを続けているということですが、同郷の皆さんどうぞ!

華友会

通信制課程卒業 杉浦 博章

華友会は、通信制課程卒業生また教職員の方々の親睦を目的として二年前に再発足いたしました。皆様方のお手元にこの蛍雪が届くころには、本年度の総会は、五月十五日に終了していることと思います。できる限り多くの皆様方に参加していただくべくご連絡をいたしたいのは山々なのですが、何しろ再発足まもなく、なかなか行き届かないのが現状です。そこで、これまで参加されてこられた方々、この記事をご覧になり、これから参加してみたいという方ぜひともお知り合いのお声をかけをお願いするしだいです。

華友会としては、華陽、華陽フロンティアの通信で学んだ仲間たちとして、卒業後も親交を持ちたい、また卒業生同士をつながりを大切にしたい。そういう方々の橋渡しをする役割として活動していきたいと思っております。

総会以外にも皆様方のご協力によりいろいろな行事を考えていきたいと思っております。レクリエーションや文化行事など、さまざまなアイデアをご提案ください。必ずしも、ご期待にお応えできるとは限りませんが、華友会としてできる限りのことはお手伝いしたいと思っております。

三つ年上なだけ

旧職員 高木 慈興



君たちの担任になった年、僕はポンコツに乗り始め、何台も乗り潰し、一昨年には一晩中走り抜いて青森迄千二百キロ単独ドライブ、昨年は熊本迄九百キロ走破。ちっぽけな家を建て、屋上に級全員や辻先生の級に来て貰って、夏休みの一夜を過ごしましたネ。それから二十年後、もう少し高く見晴らしのよい屋上を作り、毎年花火を楽しんでいます。罰が当たったのか、足かけ五ヶ月も入院、君たちに迷惑をかけました。だから本当の事をいいます。この四月、僕は八十二歳になりました。

どんなに頑張っても、君たちはたった「三つ上なだけ」の僕に追いつけないのです。・かなあ。頑張ろう。

思い出多い華陽高校

夜間定時制課程旧職員 辻 亨



過日、私の最も思い出深い学校から同窓会新聞の原稿依頼がありました。

懐かしい先生方や生徒諸君と在りし日の思い出を共有でき

る喜びを感じながら筆を執った次第です。当時は東京オリンピック、それに合わせて開業した東海道新幹線、岐阜国体大阪万国博覧会等々、日本中が活気に満ち溢れていました。私は昭和四十年新米教師として着任し勤務した六年間を通して、教育の「いろは」人生の「機微」をご教授頂きました先生方と共に学んだ生徒諸君にはとても感謝しています。有難うございました。

赴任以来、卓球部顧問を担当して放課後の一時間は他の部活動と競い合うように練習に励みました。日夜の厳しい訓練は熱心で素質のある選手達の技術が急速に向上させたと共に、勝負に大切な根性を養い、古来本校の伝統である「華陽魂」を目覚めさせました。そして強い団結心をも生じさせました心身共に充実した選手達にとって、幸運にも第一回国高校定通総合体育大会卓球女子部が開催された時には大会前の予想を覆し、県予選を突破して全国大会団体戦「準優勝」翌年には団体戦・個人戦共に「優勝」と言う快挙を成し遂げました。あの東京体育館での出来事は今もハッキリと私の脳裏に焼き付いています。そして今も当時の部員が三年毎に花を咲かせる機会を持っています。

昨年の八月、病魔（心筋梗塞）に襲われた際、一命を取り留めるべく臨機応変な応急処置を施してくれたのが、当時病院勤めをしながら学校に通っていた生徒でした「有難う」感謝の一言です。今で

も彼女が我が家の「ホームドクター」と勝手に思い込んでいます。

現在は関市に在住し、健康やボケ防止を目指して週一回程度「卓球」「囲碁」「ゴルフ」等を地域の人達と楽しんでいます。

最後に「華陽F」の発展と皆様のご健康とご多幸を祈念致しまして筆を置きます。

十三年の思い出

定時制旧職員 国安 称子

家庭の事情で全日制から夜間定時制課程に転任して、全日制で二度、転任して二年目に、二度目の担任でした。この学年のクラス編成は五クラスでA B組が就職組、C組が女子クラス、D E組が進学クラスと華々しい生徒達にめぐまれていました。一限目は五時二十五分から始まり、その時間に間に合わないとかクシードかつけける生徒も多くなりました。勉強に対する意欲がほとぼしっていた生徒達でした。昼間は仕事に、夜間は勉学に更に終っても部活に励む生徒を見て、何て素晴らしい生徒達だろうと涙がこぼれる程でした。授業態度もほとんどにしっかりといて感動の毎日だったように記憶しています。この時の卒業生が、今だに年賀状をくれています。頑張っている姿、華陽高校で培った根性というものが今の人生に生かされていることだと思っています。十三年間の思い出は、私の教職において

忘れたいものばかりです。あなた達から、人を思う心や、やさしさ、貪欲さ、など教えられた日々だったことを思い出して書きました。又私の転勤後の学校での生徒指導にも生かすことができました。

最後に華陽フロンティア高校の益々のご発展と皆様のご多幸をお祈りいたします。

生徒に学ぶ

定時制・通信制旧職員 佐々木 篤司

昭和三十年四月、岐阜高校の保健体育科の新任教師として一年間勤務したあと、県内の高校を歴任し、最後には岐阜高校と同じ「大縄場」の地にある、華陽高校で定時制三年間、通信制に五年間勤務して、平成四年三月定年退職しました。今年八十才になります。

現在はシルバー人材センターの一員として時々仕事をしながら、あとは毎日、近くにある市立図書館本館のボランティアとして書架整理をしています。もう九年目になりました。

華陽高校での八年間は今思い返せば「生徒さんに教えられた」八年間でした。教師になって最初に華陽高校に勤務していたら、あと三十有余年の教師人生にどんなに役立ったことかと残念に思っています。最近の定時制・通信制はよくわかりませんが、当時はみんな「働きなから学ぶ」勤労学徒であり、家庭の主婦や社会人だったと思います。「自分の息子が高校

生になったので自分の高校の勉強をしなればいかん」と我が身に鞭うっておられました。教師の私がどんなにか教えられたものです。

最後に、華陽フロンティア高校の益々の発展と先生や生徒さん、そして卒業生の皆様の御健勝を祈念してやみません。

ケセラ・セラで明るく

通信制旧職員 三浦ふみ江

皆さんお元気ですか。私は定年一年前に退職をしてから六年目になり、頭も体内筋力もゆるゆるの状態です。当時六十代で学んでおられた方がけっこうありましたが、よく高校生活を続けられたと、この年になってそのすこさを実感するとともに、胸が熱くなります。

通信制に九年お世話になりましたが、学ぶことはどういう事かを教えられました。未知の事を知る喜びが学ぶ意欲を更に高め、自分を大きくするとともに仲間や輪をも広げていった様に思います。みんなそれぞれ輝き、青春していました。私も鍛えられました。私にとつて一番楽しい教師生活でした。その時の経験が今でも私自身を支えてくれているのを感じます。皆さんとご一緒できたことを感謝しています。また多くの方とおつきあいができていることも嬉しいことです。

私は、昨年九月からC型肝炎治療を開始し、インターフェロン注射を受けに週一回市民病院に通っています。治療七ヶ月

やと体が治療に慣れてきたところですが、しかしウィルスがマイナスにならず困っています。何時感染したのかも分からないうのですが、感染していることを受け止め、あまり悲観的にならずにケセラ・セラ精神で明るく暮らしたいと思っっています。お元気で。

素直な気持ちで

定時制旧職員 原 雅幸



「先生頑張れ！」
毎夜、生徒指導部のメンバーとして、下校時に校門でライトセイバーを携えて、下

校指導をしていた時のある女子生徒の一言でした。私の顔がよほど疲れて暗く見えていたのでしょうか。泣きそうな顔で下校指導をしていたのでしょうか。その生徒は笑顔でこんな言葉をかけて帰っていききました。本当なら生徒が頑張らなくてはならないのに、本当なら先生がもっと笑顔で生徒を励まさなくてはならないのに。

華陽フロンティア高校には本当にいろいろな生徒がいます。そんな生徒達はいつも素直な気持ちで私達教員に声をかけ、接してくれました。時には柔らかく、時には甘えたり、時には反発したり、時には逃げていったりする生徒など、多くの生徒達の記憶がいまだに心を過ぎります。楽しいときも嬉しい時も辛いときもい

つも素直な気持ちで仲間や教員に気持ちをぶつけてきてくれた生徒達。その素直な気持ちを大切に、社会でフロンティア号をこぎ出して行ってください。私達は皆さんの活躍を見守らせていただきます。

「元気で、丈夫で！」

七年間を振りかえって

定時制旧職員 高木 政和



平成十六年四月
古い校舎とのアンパランスさを感じる体育館で、生徒の皆さんの前に立ちました。

あれから七年が、あつという間に過ぎ去って行きました。七年前のうちの四年間は、進路指導の仕事に携わり、いろいろな経験をしました。世間では定時制に通っている生徒は、皆何らかの仕事に就いていると思われ、求人票すら送ってもらえませんでした。また、採用試験を受けても、内定がもらえないことも多々ありました。そんな生徒の姿を目にして、感じたことが一つあります。自分の将来を考えた時に、今、なにをしなければならぬのか、ということをもも考えていてほしいということなんです。このことは、どんな時にもあてはまるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、教師は生徒の応援団だと思っています。一緒に走ることはできませんが、いつも大きな旗を持って、

「フレイ、フレイ」と大声をあげて、いつでも応援したいと思っています。

振り返って

通信制旧職員 青山 章子



私は平成十三年から二年間を定時制課程で、その後一年間を通信制課程で勤

務し、産前・産後・育児休暇を経て平成二十一年七月に復帰、その年度の三月まで再び通信制課程に勤めさせて頂きました。振り返ってみると、休職期間も含め、九年近くお世話になったことになりました。赴任してきた頃の華陽フロンティア高校は、華陽高校から名称を変え、大縄場より移転して間もないときで、様々なことが新たに整備されている途中だったように記憶しています。創立七十周年記念式典も盛大に行われました。毎日が、同僚の先生方や生徒の皆さんと、より良い道を探る日々で、当時の小山徹校長先生が「走りながら考える」としばしば仰つてみえたのが今でも印象に残っています。

休暇の後、通信制に再び戻ってきた際は、色々な部分さらさら改善され、より学びやすい環境が整っていたように思います。その中でもしかし変わらないのは、生徒さんたちの学びたいという意欲と、そういう生徒さんたちから私自身が、多くのことを教えていただいたということ

です。特に最後に担任した平成二十一年度三年D組の皆さん、短い間ではありましたが、共に過ごしたスクーリングの日々は宝物のような時間です。ありがたうございます。今後もご自身の決められた道を、高校生活で培われた力や自信とともに進んでいってください。

最後になりましたが、華陽フロンティア高校の益々のご発展と、同窓生の皆様のご更なる活躍をお祈り申し上げます。

卒業文集

通信制旧職員 籠橋 美和子



卒業生の皆さん、お元気でですか？

華陽フロンティアで過ごした六年間は、私にとって最高の日々でした。今私の手元には十九年度「歩」二十年度「夢」そして二十二年度「瞬」という三冊の卒業文集があります。これは私が卒業委員を中心とした卒業生の皆さんや先生方と一緒に作りあげた、大切な宝物です。皆さんの成長の足跡や真摯な思いが綴られていて、どの文を読んでも胸が熱くなります。そして写真ページには皆さんの笑顔があふれ、中には私の撮った写真も多数あり、その写真を撮った瞬間を思い出しては懐かしくて顔がほころびます。私がフロンティアで携わった仕事の中でも一番好きだったのがこの「写真を撮る」仕

事でした。文化祭やふれあい研修、そして卒業式の充実感に満ちた笑顔、授業の真剣なまなざし、そして桜に始まる四季の移ろい……。カメラを通して皆さんの一瞬一瞬を切り取り、感動を共有できたことを私は本当に幸せに思います。

どうか皆さん、フロンティアで学び卒業した時の、一生懸命な自分、前向きで純粋な自分をいつまでも忘れないでください。そして新たなことを学びつつ、悔いのない人生を歩んでください。お元気で。また会いましょう。

華陽魂は永久に

昭和四十四年度卒定時夜間 神田 長美

今春、選任を迎え定年退職して、第二の人生をスタートしました。

振り返ると、辿ってきた人生航路は、順風満帆の時ばかりではなく、苦難や困難な課題に遭遇したことが幾度となくありました。雨や嵐に頬を濡らされ七難八苦を乗り越えてきたことが、今は、良い思い出となっています。職業人として一つの仕事を全うすることが出来たのは、華陽時代の経験、経験を通して育まれた力だったと思っています。華陽高校での四年間、昼働き夜学ふという勤労学生としての生活は、自分を成長させる機会でした。

職場では、仕事の辛さや人と関わることの難しさを知らされました。また、恩師や友との触れ合いは、視野を広め、若

さの中で繰り返した非行や恋は、心の在り様を経験することが出来ました。華陽時代に、そんな体験を通して人として大切な「生きる力」が培われていたのだと考えます。

大海原を航海する船に母なる港があるように、人には自分の支える母校があります。まさに、華陽時代は、我が人生の原点なのです。

その母校は、校名を変更し時代の要請を受けて教育内容の変遷を辿ってきましたが、「生きる力」を育む華陽魂は脈々と流れていると確信しています。

さて、我が人生の第二ステージ、有意義で楽しい人生を求めて船出します。

高校四年生

昭和四十四年度卒定時夜間 野田 京子

入学式の日、四年生がとて大人に見えた、果たして自分は四年生になることができるのか。不安がよぎる。ご縁在って岐阜市内某医院に住み込ませて頂き勤労学生となった。院長は戦医として従軍していた強者しかし、ドヴォルザークの「新世界」を聞くにつけ涙するといった一面も持った豪快かつロマンチスト、夏時間と称し診察時間を変更したり、飛石連休を大型夏休みに替えたり、自由業ならではアイデアマンだった。子供は私と年の近い一女三男の四人有り仲良くして頂いた。今も交流が続いている。入学当時夜布団の中で泣いていたねなんて聞か

されるとそんなこともあったなうって遠い昔を懐かしむ。院長にはよく「おまえは貧乏だから幸福だ」と言われた「昼の高校にゆけず働くことがなぜ幸福？」と心の中で反発していた。しかし、創意工夫やる気などはハングリー精神から生まれると気付き、分相応ということや足るを知るも覚えた。四年になった時、やっどこまでこれた。定時制高校四年の自分がどんなに誇らしかったか、よくここまで頑張ったねあと少し。四年生とは、登山者が山頂で見知らぬ者同志喜び合うあの姿とダブる。登った者でなければ分らない喜び、華陽では多くの友とこの喜びを分かち合えた。勤労学生でよかったとしみじみ言える。

華陽高校を卒業して四〇年

昭和四十五年卒定時夜間 佐々木 幸彦

私は現在、北国、網走市に住んでおります。卒業して丁度四十年が経ちましたが、今こうして原稿を書いている時お世話になった恩師、同級生達の顔が目に見えます。

さて、私にとつての華陽高校は、その後の人生において、かけがえのないものになりました。伝統のある高校で学ばせて頂き、勉学はもちろんの事、不撓不屈の精神は、他の高校では絶対に学べないことだと思っております。

在学中のことを少し述べてみますと、一・二年の時は、本当に苦しく一人で悩ん

でおりました。そんな折、担任の川島邦明先生に相談しました所、先生は親身になって、ご自身の人生経験を語り下さり、そして叱咤激励を下さり私が卒業するまで声をかけて下さいました。ですから川島先生のお陰で卒業出来たし、永遠の恩師でもあります。

私の経験から在校生にお願いがあります。何年かかっても良いからせつかく入った伝統ある華陽フ高校を途中退学することなく必ず卒業して下さい。又色々な事で悩む事があるかと存じますが、そうゆう時は、まず先生方に相談することです。きつと良い答えを出してくれますから。私の経験から言つて！

又知人に・友人に華陽フの素晴らしさを伝え、一人でも多くの生徒が入ってくれる事を切に望みます。

華陽高校同窓の絆

昭和四十五年卒 定時制夜間 野村 千秋

卒業して四十年が経ち『もう一度、華陽の同窓生と修学旅行の地（福島・茨城）を巡りたい』と思つていた頃三・一一 東日本大震災が起き、津波被害や原発事故で、訪れた土地も大変な状態になってしまった事に呆然としている。福島は愚息が学生時代、新社会人の時過ごした街で、幾度か訪れ縁のある所一日も早い復興を願いつつ、またいつか再訪できたらと思つている。

私は卒業してからずっと心の片隅に、

恩師や友の存在がある。卒業時の私達に向けた恩師の言葉「命は絶対大切にされる権利がある。自分にも社会にも大切にされる義務がある。」と。今の混沌と社会だからこそ改めて指針として今なお強く思う。

また華陽で出会った友との絆は、いつまでも不変であり、四・五年に一度のクラス会や、メールのやりとりなど交流することでも元気をもらう。例えばAさんは現役の看護師として頑張っている。（私も頑張ろう）Bさんは今もテニスを楽しみ余暇を満喫しているらしい。（羨ましいかぎり）そしてBさんは念願の飲食店を開いた。先日久しぶりに訪ねてみた。「頑張ってるね」と言つと「だつて夢だつたんだもん」と本当に嬉しそう。その間も入店する人に挨拶する彼女はしっかりとした店主の顔だつた。帰る時暖簾の向こうから何度も手を振ってくれた。笑顔をもらい疲れた心も温かくなった。こうして卒業しても、絆は失わず、いつでもどこかでつながっている。

ふりかえる

平成元年卒 定時制 日下部泰世
(旧姓・加藤)

原稿の依頼を受けて、高校を卒業し二十年以上も経っている事に気がついた。私が通っていたのは昼間二部制で午前中学校、午後から仕事。午前に仕事、午後から学校の二パターンを一週ごと交替して行つていた。十五歳で親元を離れ、寮生活。

早朝五時からの仕事の週は、キツク午後からの授業は睡魔との闘い。慣れる前に辞めてしまったクラスメイトも多かった。定時制は行事がないと思つていたが、スポーツ大会、運動会、文化祭、かるた（百人一首）大会、予餞会などあり、楽しく参加したのを覚えている。部活動に関してもあると思つていなかったが、いくつもあり、中学時代やつていたバスケットに誘つてもらつたり、友人に頼まれて演劇部にも参加した。練習する時間が短かい為、成績は良くなかったが充実していた。陸上部では、恥ずかしい記録だったが枠内に入ったので県代表として国立競技場へ行く事ができた。機会を与えてくださった先生に感謝でいっぱいです。

学業と仕事の両立は、とても大変だったけど自信と誇りになった。励まし合つた友達、あたたかく見守ってくださつた先生、職場の人、まわりにいる人に支えられて頑張る事が出来たのだと思う。何かをやりとげる大切さ、大変だけど充実した学生時代、三人の子供達にも伝えていきたいと思つた。

思い出のフロンティア高校

平成元年度卒 通信制 川口 鉄三

校名が華陽フロンティア高となった事校舎が西鶉に変わった事により、私の学んだ華陽高とはちがう学校のような気がします。卒業以来学校には一度も行つていませんが、真冬のスクリーニングが終り

四階の西側の窓から見た西濃の山々、夕日に輝き本当に美しく今でもその美しさが思い出として残っています。遠足、体育大会、修学旅行、などを通じて、高生の基本が学べると思います。卒業生を送る会も忘れる事が出来ない思い出の一つです。今地域で生活していく中で、華陽の卒業単位が役立つています。四年間月二回のスクリーニング。下呂よりJRで出席しました。本当に楽しい四年間でした。

形は変わっても つながる想い

平成元年度卒 定時制 佐々木 崇人

まずは先の震災で被災された方々にお見舞いを申し上げます。

さて、私達が華陽高校を卒業してからはや二十年余りの時が経ちました。今にして思えば当時の本学は過渡期だったのかもしれない。昼間部や看護科が募集停止になったのは私達の在学中でした。経済的理由で通う者は少数派になりつつあり、そうでない事情から通っていた生徒が私を含め多数いました。卒業する頃には人数が半数近くまで減つてしまつたのが残念でなりません。

学校生活では演劇部やバトミントン部の部長や生徒会の役員もさせていただきました。結構面白おかしい四年間だったと思つていました。出身地も世代もまちまちな仲間達でしたが、よき友と出会えたと思つています。もちろんよき恩師の方々とともに。

その後私は進学、就職、今では二児の

父として頑張っています。当時挫折しかけていた私がここまでられたのは、あの高校生活の四年間があったからかもしれません。学校は名前も変わり場所も転じてしまいましたが、今でも近くを通りかかれば堤防で一休みして元校舎を眺めながら想いを馳せたりしています。学校の形は変わってしまっても、華陽高校への想いというものは脈々と受け継がれていくものと思っています。

我が母校華陽高校に感謝。
そして後輩達よがんばれ。

華陽高校、同窓生

ありがとう。

平成二年度卒通信制 吉田 建夫

華陽高校を卒業して二十年、もうそんなになるの。四十過ぎてからの勉学は想像以上に苦しかった。でも生徒会活動とクラブ活動には十代の同級生と一生懸命に取り組んだ。私達の担任の先生は四年間持ち上がりで卒業まで一緒だったので高校生として十分に楽しんだ四年間だったと思返しています。同級生には、十代の人から六十代の人まで、幅広くいたので教室の中では休み時間は、賑やかでした。色々な行事では多くの意見が出て活発でした。そんな雰囲気の中で学ぶ意欲も湧いたと思います。

私は華陽高校で諦めないことを教えていただきました。ありがとうのひことです。

でも校舎の移転、名前の変更には心の

火が消えてしまった。もうこれでいいのだと思っていました。でも昨年同窓会を催していただき、出席して先生と皆さんで久しぶりに話し合うことができ、楽しい一日でした。高校での出逢いはこれから大事にして行きたいと思いました。先生方、同級生の皆さんお元気で頑張ってください。そしてありがとう。

取り戻せた時間

平成二十一年度卒定時制 小島 秀紀

華陽フロンティア高校を卒業してもう一年が過ぎました。進学し充実した日々を送っている中でも高校生活をよく思い出します。高校生活の三年間でさまざまなことを経験させてもらうことができました。学校行事・部活動・生徒会、すべてが今の私の力になっています。

私は中学生の頃不登校でした。学級での活動をほとんど経験せず、大好きだった野球も続けることができずにとっても寂しく辛い思いをしていました。そんな私が出会ったのが華陽フロンティア高校の仲間でした。

入学した当初は自分が通い続けられるか不安なりません。何年振りかわからない教室。入るのに緊張したことを覚えていきます。それでもその教室は笑いで溢れていました。それからは中学生の時に経験した寂しい思いには一度もならず、過ごすことができました。すべてに全力を注ぎました。それはまる

で今までの時間を取り戻しているかのようでした。

そして卒業後、さらに自分を成長させるため進学する道を選びました。いま志をもつて日々を過ごしているのは華陽フロンティア高校での三年間があったからです。

最後に、私を支えてくれた先生方と仲間に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

個性を輝かせて

平成二十一年度卒通信制 井上 愛美

「私にとってフロンティアの三年間は、自分を探す旅のようなものでした」

私が高校を卒業してから、一年が経ちました。卒業文集に綴った言葉を、懐かしく思いながら読み返していました。私の高校生活は、冒頭で述べたように、自分を探す旅のようなものでした。様々なことを体験し、吸収し、学びました。

入学当初の私は、積極的に動けるタイプではありませんでした。しかし、高校生活に慣れていくうちに、このままではいけないと思うようになり、学校行事に積極的に参加するようになりました。私は絵を描くことが好きなので、学校行事のポスター作りを任せられたことがあります。校内に自分が作ったポスターが貼られ、こそばゆい反面、役に立ったことが嬉しくもありました。華陽フロンティア高校は、自分の個性を見出せる場所であり、発揮できる場所でもあります。私は、私

に出来ることや役割があることを実感しました。

現在、私は看護師を目指して、日々勉強に励んでいます。今がとても充実して楽しいと思えるのは、華陽フロンティア高校で培ったものが大きかったからです。私が出発することを追求するために、これからも積極的に生きていきたいと思えます。母校よ、ありがとうございました。

振り返って

平成二十二年度卒定時制 木俣 大和

華陽フロンティアを卒業して一ヶ月あまりが経ちました。私にとつての三年間の高校生活は長いようで短いものでした。一番の思い出は、共に過ごした仲間との他愛のない日常でした。そして私は、この華陽フロンティアで変わることができました。

きっかけは、高校一年生の時に生活体験作文を全校生徒の前で発表したことでした。正直、発表する前までは憂鬱でしたが、いざ発表をしてみると、自分の過去を素直に語ることで、清々しい気持ちになっていました。そしてなにより、多くの仲間共感してもらえて嬉しかったことを今でも覚えていきます。その日を境に私は、もつと色々なことに挑戦してみたいと思ひ始め文化祭・卒業生を送る会の実行委員そして生徒会活動など積極的に取り組んでいけるようになりま

した。その過程で私は大切なことを学びました。それは、「自分が変わりたいと思うのであれば、失敗を恐れずに勇氣を出して一歩踏み出さなければいけない」ということです。そのことが今、私の大学生活の中で大きな原動力となっています。最後になりましたが、今の私があるのは、華陽フロンティアでの生活があり、そして多くの仲間や学校の先生方そして家族の支えがあったからです。本当にありがとうございました。

破壊のあとに

平成二十二年卒通信制 河尻哲史

第八十回、この八十年は、日本人の平均寿命に近く、およそ四世代をまたぐ長いものです。その記念すべき号に同窓会に入ったばかりの私が記事を載せていただく機会に恵まれ光栄に思います。

他方、ちょうどこの蛭雪発刊準備の幹事会は東日本大震災の直後でもあり、この原稿はその一ヶ月後に着筆したものです。岐阜での震度は小さく影響も少なかったのですが。

一方、被災地は圧倒的な大津波、町を焼き尽くさんばかりの大火災、そして今も緊張の続く原発の見えない放射線の脅威の只中にあります。

近年、限界集落、無縁社会などの人間関係の希薄化が問題になっている中での大震災。

この大震災は私たちが無意識に囲まれ

ている文明を大津波とともに一気に流し去りました。しかし、それでも流されないうものが人間同士の縁、絆でした。むしろ、文明が流されたことで立ち上がって来たようにも見えました。

八十年前、電話は無く、パソコンもケータイもここ二十年程のもんです。それが人間同士を光の速さで同時刻に結んでいるのにもかかわらず却ってその関係が希薄化、むしろ嫌悪するようなどころがあります。

ちょうど分子と分子が近接すると引力ではなく斥力（せきりよく。反発、退ける力）が働くようにです。あまりにも近すぎることで人間同士の距離のとり方がわからなくなっているのではないかなと思います。

こういう時代と同じ学校を卒業した者同士の同窓会は見直されてくると思いますが。こういう場所、縁を守って関わっていくことを私自身も大切にしていきたいと思えます。

これからも同窓生のみなさんとの関わり合いができることを楽しみにして次の九十年、百年へつながっていけば嬉しいですね。



定通合同卒業証書授与式

定通合同卒業証書授与式は、本校新体育館建設中の平成十六年度に長良川国際会議場で初めて実施されて以降、平成十七年度からは本校新体育館に会場を移し、毎年三月の第一日曜日に盛大に挙行されています。同じ校地内で学びながら、ほとんど接点がない定時制課程と通信制課程の生徒と職員にとって、華陽フロンティア高等学校の仲間である一体感を実感する貴重な定通合同行事として定着しています。平成二十三年三月六日の平成二十二年卒業証書授与式では、定時制一四八名、通信制一二八名が晴れやかに卒業の日を迎えることができました。卒業生を代表して定時制課程からは木俣大和君が、通信制課程からは春田陽子さんが、本校での素晴らしい思い出とともにこれからの決意について、力強く感動的な式辞を述べてくれました。当日は同窓会から、澤田榮作名誉会長、樽谷毅会長をはじめ多数の役員の方々にご臨席を賜り、卒業生の皆さんに対して、心のこもった激励とともに同窓会への歓迎のお言葉をいただきました。また今年度予定されている創立八十周年感謝記念事業への協力が呼びかけられました。



定時制課程入学式

平成二十三年年度定時制課程入学式は、四月八日(金)、樽谷毅同窓会会長・近藤弥生PTA会長を始めとして十名の来賓の前方のご臨席を賜り、満開の桜の下、盛大に挙行されました。

一年C組小野木香奈さんが新入生一九九名を代表して宣誓書を読み上げてこれからの高校生活への誓いを新たに、平成二十三年入学式は新しい生活をスタートさせることとなりました。



通信制課程入学式

四月一七日、新入生一〇名を迎え、通信制入学式が厳粛に挙行されました。伊垣正子さんが入学生を代表して宣誓し、学習をはじめとして学校生活に励むことを誓いました。

校長先生は式辞の中で、「思いやりの心」、「自学自習」、「継続は力なり」、これら三つのことを大切にして頑張ってくださいと話されました。来賓にお迎えした同窓会副会長 浜野健三様、校友会会長 山田英二様も力強い励ましの言葉をかけてくださり、新入生たちは新たな一歩を踏み出しました。



平成22年度 部活動成績報告

定時制

一 岐阜県高等学校定時制通信制 総合体育大会

・女子バレーボール部 優勝

・陸上競技部

男子200m 3E 石井 将統 優勝

男子400m 3E 石井 将統 優勝

男子400mリレー 優勝

男子走幅跳 2D 浅田 雄基 優勝

男子走高跳 2D 浅田 雄基 優勝

男子総合 優勝

男子トラック 2位

男子フィールド 2位

女子800m 1H 平田 真琴 2位

・軟式野球部 優勝

・剣道部 2位

男子団体 2位

男子個人 2位

女子団体 2位

卓球部 2位

男子団体 2位

サッカー部 優勝

ソフトテニス部 優勝

女子団体 優勝

女子ダブルス 優勝

二 全国高等学校定時制通信制
軟式野球愛知・三重・岐阜大会

・軟式野球部 優勝

三 全国高等学校定時制通信制
総合体育大会

・女子バレーボール部 ベスト8位

・陸上競技部 3位

男子400m 3E 石井 将統 2位

男子1600mリレー 2位

女子100m 3D 小林 優紀 出場

女子800m 1H 平田 真琴 出場

・軟式野球部 出場

・剣道部 予選リーグ2位

男子団体 2位

女子団体 2位

卓球部

女子個人 2D 北川 陽子 出場

サッカー部 出場

ソフトテニス部 出場

女子団体 出場

女子ダブルス 出場

3A 吉田瑠奈・3D 塩谷美樹

四 岐阜県高等学校定時制通信制 秋季体育大会

・軟式野球部 優勝

・剣道部 優勝

女子個人 優勝

男子個人 2位

卓球部 2位

男子団体 2位

男子個人 2位

女子団体 2位

女子個人 2位

サッカー部 優勝

五 東海定時制通信制総合体育大会

・バドミントン部 出場

女子ダブルス 出場

3B 若原 希・3E 佐々木麻衣

卓球部 優勝

男子団体 優勝

ソフトテニス部 出場

男子ダブルス 出場

1A 多賀達也・2B 船戸 皓平

女子団体(岐阜県選抜) 優勝

3A 吉田瑠奈・3D 塩谷美樹

六 岐阜県高等学校演劇大会

・地区大会 優秀賞

・県大会 奨励賞

七 岐阜県高等学校総合文化祭

・演劇部 岐阜県南地区合同公演 優秀賞

八 生徒生活体験発表大会

・岐阜県高等学校定時制通信制 生徒生活体験発表大会 奨励賞

2B 澤田 彩那

通信制

一 岐阜県高等学校定時制通信制
総合体育大会

・剣道部 優勝

女子団体戦 優勝

女子個人戦 優勝

2D 伊藤 栞 優勝

3C 栗本 真衣 準優勝

卓球部 優勝

女子団体戦 優勝

女子個人戦 優勝

2B 今井 光里 優勝

3A 村井 理紗 準優勝

男子団体戦 優勝

男子個人戦 優勝

3A 鈴木 哲也 優勝

3A 鈴木 巖 準優勝

バスケットボール部 優勝

女子 優勝

男子 優勝

二 全国高等学校定時制通信制
総合体育大会

・剣道部 準優勝

女子団体戦(県チーム) 準優勝

女子個人戦	2 D 伊藤 栞	ベスト16
卓球部	3 C 栗本 真衣	出場
女子団体戦	2 B 今井 光里	2回戦進出
女子個人戦	3 A 村井 理紗	出場
男子団体戦	3 A 鈴木 哲也	4回戦進出
男子個人戦	3 A 鈴木 巖	3回戦進出
バスケットボール部	3 A 鈴木 巖	3回戦進出
男子	ベスト16	出場
女子	ベスト16	出場
三 岐阜県高等学校定時制通信制		
・バスケットボール部		
・ソフトテニス同好会		
男子個人戦	1 D 川本真功・1 C 永田龍(ベア)	優勝
男子個人戦		優勝
男子個人戦		優勝
四 国民体育大会第31回東海ブロック		
・ボウリング競技		
少年女子個人戦	2 C 牧野 祐架	第3位
少年男子個人戦	1 D 田中 善寛	第5位
五 生徒生活体験発表大会		
・岐阜県高等学校校定時制通信制		
生徒生活体験発表大会	3 B 大坪 令奈	奨励賞
中部地区高等学校通信制		
生活体験発表大会	2 B 井上 修代	優良賞

平成22年度華陽フロンティア高等学校同窓会決算書

収入の部 (単位:円)

科目	予算額			決算額	差引	備考
	当初予算額	補正額	最終予算額			
会費	902,500	24,500	927,000	927,000	0	役員総会出席費3,500円×30人 終身会費 3,000円×274人 (定)146人 (留)128人
入会金	520,000	28,000	548,000	548,000	0	終身会費 2,000円×274人
返還金	0	500,000	500,000	500,000	0	八十周年感謝記念事業会計
雑入	8,554	△8,500	54	129	75	預金利息
繰越金	770,946	0	770,946	770,946	0	
合計	2,202,000	544,000	2,746,000	2,746,075	75	

支出の部

(単位:円)

科目	予算額			決算額	残額	備考
	当初予算額	補正額	最終予算額			
総会費	350,000	0	350,000	204,132	145,868	役員総会及び懇親会経費
役員会費	100,000	0	100,000	21,934	78,066	役員会弁当・お茶代
旅費	160,000	0	160,000	68,437	91,563	東京同窓会出席旅費
印刷消耗品費	250,000	0	250,000	47,165	202,835	新聞・総会案内等
通信運搬費	100,000	0	100,000	88,420	11,580	役員会開催通知案内ほか
入会歓迎会費	260,000	0	260,000	164,400	95,600	卒業記念品(600円×274冊)
部活動協力費	20,000	0	20,000	0	20,000	
褒賞費	50,000	0	50,000	30,200	19,800	会長賞記念品
厚生費	200,000	0	200,000	144,961	55,039	東京同窓会等総会祝儀
予備費	712,000	544,000	1,256,000	50,000	1,206,000	八十周年感謝記念立告協賛
合計	2,202,000	544,000	2,746,000	819,649	1,926,351	

(予算執行に当たって各項目の流用を認める。)

(収入) (支出) 翌年度へ繰り越し
2,746,075 ー 819,649 = 1,926,426

貸付の状況 貸付先 八十周年感謝記念事業会計 500,000円(無利子)
H22.3.9 貸付 H23.2.28償還(収入済み)

○特別会計 平成22年度華陽フロンティア高等学校同窓会基金

21年度末残高	収入(利息)	支出(一般会計)	22年度末残高
5,344,339	3,316	0	5,347,655

(単位:円)

項目	種別	預入日	満期日	口座番号	本年度末残高金額
華陽フロンティア高校同窓会積立	定期預金	21.10.14	22.10.14	No.1229724	807,070
華陽フロンティア高校同窓会積立	定期預金	22.3.29	23.3.29	No.1229724	538,345
80周年感謝記念事業積立金	定期預金	22.2.18	22.2.18	No.1317220-1	2,001,120
80周年感謝記念事業積立金	定期預金	22.2.18	22.2.18	No.1317220-2	2,001,120
合計					5,347,655

平成23年度華陽フロンティア高等学校同窓会予算書(案)

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
会費	1,525,000	902,500	622,500	総会費 7,000円×100人 終身会費 3,000円×275人
入会金	550,000	520,000	30,000	終身会費 2,000円×275人
雑入	10,574	8,554	2,020	預金利息、寄附金
繰越金	1,926,426	770,946	1,155,480	
合計	4,012,000	2,202,000	1,810,000	

支出の部

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
総会費	750,000	350,000	400,000	総会開催経費
役員会費	100,000	100,000	0	役員会経費
旅費	160,000	160,000	0	東京同窓会等出席旅費
印刷消耗品費	850,000	250,000	600,000	同窓会新聞印刷等
通信運搬費	850,000	100,000	750,000	新聞・資料等郵送代
入会歓迎会費	300,000	260,000	40,000	卒業記念品代(275人分)
部活動協力費	20,000	20,000	0	
褒賞費	50,000	50,000	0	会長賞 5,000円×10人
厚生費	180,000	200,000	△20,000	東京同窓会等総会祝儀
予備費	752,000	712,000	40,000	
合計	4,012,000	2,202,000	1,810,000	

(ただし、予算執行に当たっては、各項目の流用を認める。)

○特別会計 平成23年度華陽フロンティア高等学校同窓会基金

22年度末残高	収入(利息)	支出(一般会計)	23年度末残高見込
5,347,655	4,000	0	5,351,655

(単位:円)

前年度末積立	種別	口座番号	22年度末残高
華陽フロンティア高校同窓会積立	定期預金	No.1229724	807,070
華陽フロンティア高校同窓会積立	定期預金	No.1229724	538,345
80周年感謝記念事業積立金	定期預金	No.1317220-1	2,001,120
80周年感謝記念事業積立金	定期預金	No.1317220-2	2,001,120
小計(前年度末残高)			5,347,655
収入(利息)			4,000
支出			0
合計(本年度末残高)			5,351,655